

海外安全対策情報平成28年度（2016年度）第4四半期（1～3月）

1 社会・治安情勢

- (1) 1月10日、首都グアテマラシティのアウロラ国際空港において、シリア人男性が偽造パスポート所持の疑いで逮捕された。本件についてグアテマラ国家文民警察長官は、「昨年（2016年）から複数のシリア人を逮捕してきたが、戦禍から逃れるための手段にすぎないと分析している。しかし、テログループと関係がある可能性も捨ててはいない。」と述べており、グアテマラにもテロ分子が流入してきている可能性も否定できない。
- (2) 最近、周到に計画し準備されたと思われる警察官襲撃事件が連続して発生している。犯行にはアサルトライフルやグレネードランチャーなど、重火器が使用されており、実際に歩行者が流れ弾に当たるなどして負傷していることから、犯罪の巻き込まれに注意が必要である。
- (3) 対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察が発表している犯罪統計によると、犯罪総件数は全体的に減少しているものの、買い物客が行き交う昼間の市場に手榴弾が投げ込まれたり、組織化され武装した少年らにより、警察官が惨殺されたりするなど、治安が回復してきたとは言えない状況である。

殺人	1, 086件（前年比	4. 0%減）
傷害	1, 315件（	” 20. 8%減）
強盗・窃盗	3, 039件（	” 22. 0%減）
強姦	144件（	” 8. 3%増）
誘拐	7件（	” 53. 3%減）
行方不明	813件（	” ほぼ変化せず）
家庭内暴力	351件（	” 18. 2%減）

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、平成29年1月～3月に治安当局が取り扱った殺人事件1, 110件のうち、銃器を使用した事件は842件（全体の77. 5%）、同じく傷害事件1, 315件のうち銃器を使用した事件は799件（60. 8%）に達する。殺人事件における銃の使用率は、前年比で2. 8%減少しているものの、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

2月に、グアテマラ各地を旅行していた邦人旅行者が、3月初旬にコスタリカ国際空港でカードを使用しようとしたところ、当カードがブロックされていた。カード会社に連絡したところ、3月に入り複数回に渡ってカードでの引き落としがされており、残高がゼロになっていたことが判明した。最後に現金引き落としをしたのは、グアテマラのパナハッチェル市の一度のみであったことから、同市でスキミングされた可能性が高い。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 2月17日～19日にかけて、首都近郊において連日警察官が襲撃される事件が発生。17日には、警ら中の警察官巡査が後頭部を打ち抜かれ死亡。18日、警察幹部（警視）が襲撃を受け、同運転手（巡査）が負傷。19日には、警ら中の警察官巡査2名が銃撃され負傷し、近くを歩いていた女兒1名が流れ弾により負傷した。

イ 2月19日、グアテマラシティ近郊のビジャ・ヌエバ市において、市場に手榴弾とみられる爆発物が投げ込まれる事件が発生し、買い物客ら女性3名および男児1名が負傷した。3月8日、グアテマラシティ近郊のサン・ホセ・ピヌラ市の児童福祉施設において、放火とみられる火事が発生し、14歳～17歳までの少女41名が死亡した。

ウ 3月19日深夜、サン・ホセ・ピヌラ市の少年更生施設において暴動が発生し、同施設に勤務する指導員4名が死亡。更に日付が変わった3月20日未明、グアテマラ第2の都市ケツアルテナンゴ県の各地で、武装グループによる警察官襲撃事件が合計9回発生し、警察官3名が死亡、8名が重傷。本事件の捜査により、グレネードランチャーやアサルトライフルなどが押収された。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫電話及び同メールについては、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。（了）